

畜水産視察ツアー

実施日：2015/11/18
協力団体：食生活改善推進員
参加人数：31名

タイプ：見学、講座、試食・調理

水産業、畜産業を見学・体験する日帰りツアー。

水産業では舞鶴漁港を見学し、自分たちでさばいた魚を煮付けやお刺身にして試食。畜産業では牛に関するクイズも交えながら、牛乳や乳牛について学んだ。



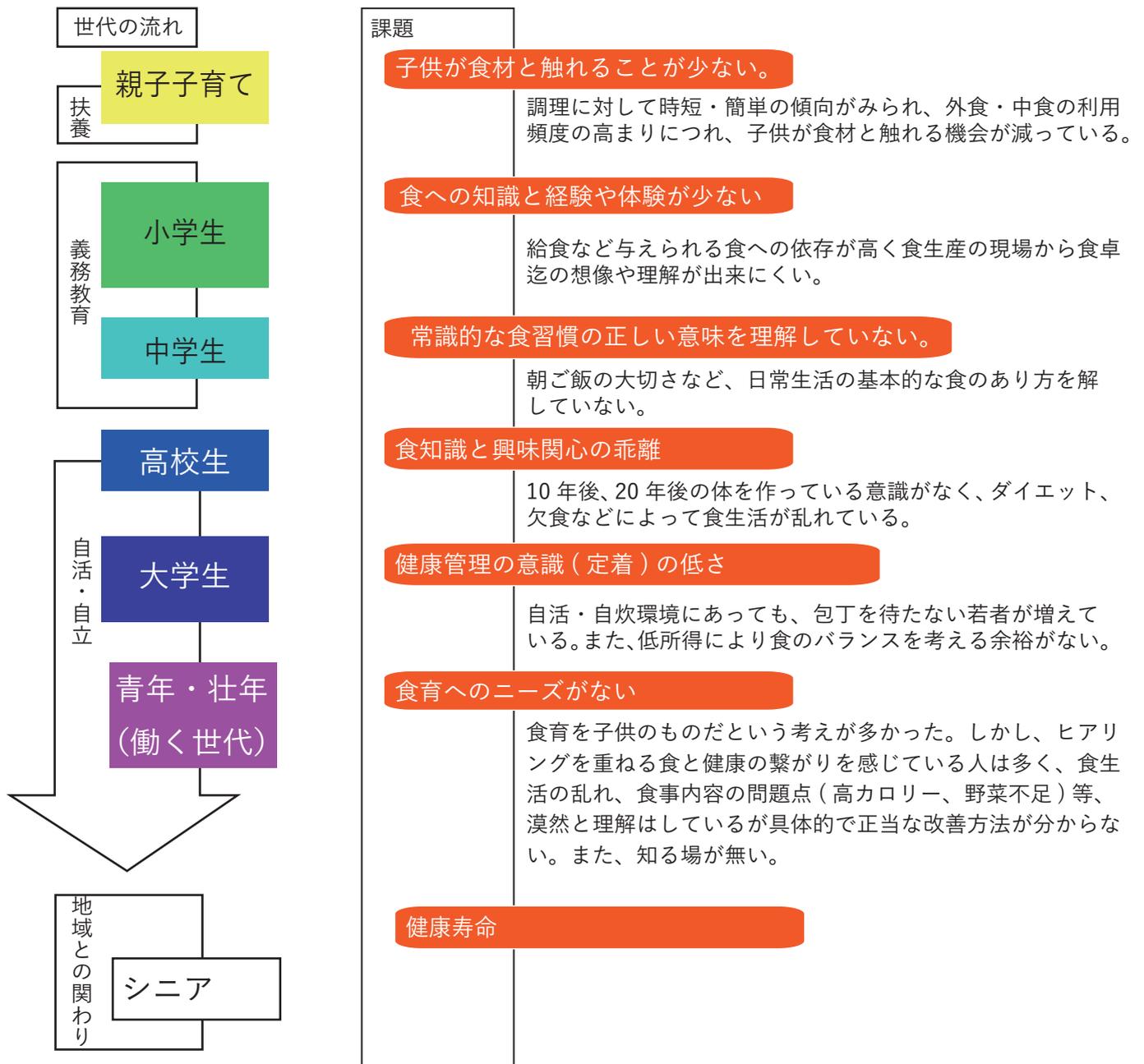
ちょっとした出来事

年を重ねると何もかもが億劫になるもの。けれど、参加していただいた皆さんは、学んで、食べて、散策すると元気いっぱい。

「今日学んだことを孫にも教える」とご満悦。



世代別課題の構造的把握



6世代に渡って活動したことにより、上記の課題が切り分けられた。

親子子育て世代は子供が家庭で食材と触れる機会が少なく、親世代は外部（イベントなど）にその機会や日常で取り入れる方法を求める傾向にあった。

小学生～中学生は食事を親世代が用意する機会が多いこと、比較的農村地に居住していることから食・農林水産業への関心は低かった。

高校生～大学生になると、自分で食材（菓子類含む）を購入する機会も増えるが、健康のための選択は難しく、ダイエットや嗜好が優先されていた。

青年・壮年の働く世代と言われる人たちの傾向は、様々な理由（単身赴任、時間がないなど）の理由で調理が難しく、健康や栄養のこととなるとある程度の理解はあるが実践は難しいようだ。

今回の活動で、『食育』といっても求められている内容は多種多様であったことに加え、それらの要求が極めて曖昧であることが判明した。ヒヤリングや地域特性を踏まえ、専門知識を有した者が具体化し、柔軟に企画・提案・実施していくことが求められている。限られた時間や場所で、いかにして対象者に実践してもらえる内容を提示し、行動に反映してもらうかが今後の課題である。